

令和6年度 事業報告書  
醍醐いきいき市民活動センター

【指定管理者：株式会社ワン・ワールド】

## 1. 管理運営の状況

### 1 施設運營業務

#### (1) 職員体制

センター長 1 名、職員 5 名（常勤 2 名、非常勤 4 名）

#### 【人材育成の取組】

6 年度も学生のフィールドワーク先として受け入れを行い、学生の実践の場としていきセンを活用してもらった。京都橋大学、京都先端科学大学、立命館大学においては、いきセンから出向いて事業の企画運営やボランティアとして関わる学生に向けてプレゼンを行った。京都橋大学の学生は企画運営を、京都先端科学大学、立命館大学の学生はボランティアとして関わる事が出来た。

スタッフにおいては、京都府子育て支援員の資格取得や、カスタマーハラスメントの研修も受講した。6 年度は行政や他団体等との連携事業が多く、企画段階から関わることで、企画の幅も人脈も広げることが出来た。

#### (2) 貸館等

##### ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
74	77	94	92	75	90	92	92	81	73	78	96

(年間)

1,014 件（前年度比 103%）

##### イ 利用状況

- 平日、土日に関わらず、年間を通じて集会室の利用が多く、ジャンルは子ども大人を問わずダンス系サークルや空手の利用が多かった。会議室では平日昼間の利用が多く、中高年の詩吟や朗読、音楽などの文化系サークルの利用が多かった。新たに増えたサークルでは、三線、学習（自習）、合唱などがあり、継続利用されている。
- 全体的に比較的午後から夜間にかけての利用はあるが、午前中の利用が少ないので増やしていきたい。

##### ウ 利用促進に向けた取組

- 6 年度も近隣の商業施設でのポスター掲示、チラシ設置を行った。SNS での発信や、活動発表の場を近隣の商業施設で行うことで、より広く活動を周知した。利用者の声を受けて、卓球、歌謡舞踊の体験会を実施した。  
6 年度から電話やネットでの仮予約を実施した。

##### エ その他

- サロンの利用者数としては 1,502 名で前年度比 93% となり全体数は減少したが、6 年度に実施した事業により新たな層の利用者が増えた。事業以外の利用者としては、ほぼ毎日来られる高齢者が 1 名のほか、近隣の高齢者施設の利用者が散歩途中に立ち寄られることもあった。

### (3) 情報発信等

#### ア 取組実績

- ホームページ、Facebook、X、Instagram、LINE など SNS で情報を発信。  
Facebook、Instagram はほぼ毎日、X でも積極的に発信している。ネット環境が整っていない高齢者層にも届くよう、リーフレットやチラシ、広報誌など紙媒体による情報発信も行った。
- 近隣の商業施設でもチラシやポスターでの情報発信を行った。イズミヤ六地蔵店においては、展示スペースの空きが出るたびに、醍醐いきセンコーナーとして場所を提供していただいた。また、活動発表の場として「だいきいきフェスティバル」を開催し、活動団体には出店ブースで活動を周知する機会を提供した。  
山科醍醐地域の活性化を図るプロジェクト「meetus 山科・醍醐」にも関わることができたので、関連イベントにおいて、いきセンブースで情報発信をすることができた。また、いきセンと関わりのある活動団体にも出店してもらうことで、活動を広く周知することができた。

#### イ 取組の効果

- イズミヤで開催したフェスティバルにおいて、来場者から歌謡舞踊体験会の実施要望があり、いきセンで体験会を実施した。  
「meetus 山科・醍醐」のイベントに関わったことで、来場者の子育て世代の方からアンケートを広く収集できたので、今後の地域での事業の組み立てにおいて、参考にすることができた。

### (4) 管理運営

- 建築設備、消防設備、自家用工作物の保守管理等を実施。

### (5) その他

- 6年度は特に行政と連携しての取り組みが多く、醍醐支所地域力推進室をはじめ、子どもはぐくみ室、健康長寿推進課と連携して事業を実施した。  
子どもはぐくみ室との連携では、いきセン事業の「はざまカフェ」を乳幼児健診に合わせて実施した。子育て世代のお母さんの悩みを聞いたり、お母さん同士の交流の場を提供したいという「はざまカフェ」のメンバーの方が主体的に活動。  
健康長寿推進課との連携では、「つながるプラットフォームミーティング」を実施した。この事業には、いきセン・醍醐支所のほか、社協・包括支援センター・福祉サービス協会・まちづくり協働コーディネーター・大学・地域の市民活動家が主体的に関わる。7年度も継続して実施していく。  
また、醍醐支所で開催の「市民対話会議」にも地域のハブとなる施設として参加。いきセンからお声掛けをして、地域で活動する団体にも参加していただき、それぞれの活動を直に市長に届けることが出来た。

【事業名】 だいが未来プロジェクト（市民活動支援・活性化事業）

- ① ふらっと相談 café
- ② だいが de ワイワイ井戸端会議「やんちゃ MTG」
- ③ 醍醐ゆめコレクション
- ④ 醍醐いきいきフェスティバル
- ⑤ だいがゆめもり秋まつり
- ⑥ 醍醐みらいユースセンター
- ⑦ サークル支援事業（ア卓球体験会 イ歌謡舞踊体験会）
- ⑧ お花見交流会
- ⑨ 連携事業（ア：辰巳保育所なつまつり イ：醍醐ふれあいプラザ ウ：みんなの文化祭 エ：つながるプラットフォームミーティング オ：ミータスラボ カ：醍醐まちづくりカフェ キ：春日野小フレンズゲームラリー ク：さくら祭り ケ：みらい食堂）

事業の概要

1 開催日時：

- ① 令和6年5月20日、6月17日、7月15日、8月19日、  
9月18日、10月21日、11月18日、12月16日、  
令和7年1月20日、2月17日 毎月第3月曜日 13時～15時
- ② 令和6年7月27日（土）13時～16時
- ③ 令和7年2月22日（土）11時～15時
- ④ 令和6年12月8日（日）13時～15時
- ⑤ 令和6年9月22日（日）11時～15時
- ⑥ 令和6年12月23日、令和7年1月13日、1月27日 2月10日  
2月24日 3月10日 各月曜日 16時30分～20時
- ⑦ ア：令和6年8月9日（金）11時～12時、8月23日（金）11時～12時  
イ：令和7年2月28日（金）13時～15時、3月10日 13時～15時
- ⑧ 令和7年4月5日（土）11時～15時
- ⑨ ア：令和6年7月19日 16時～17時  
イ：令和6年10月13日 10時～14時  
ウ：令和6年10月26日 11時～15時  
エ：①令和6年11月25日 18時30分～20時  
②令和7年3月27日 18時30分～20時  
オ：令和6年12月5日～12月8日 10時～16時  
カ：令和6年12月12日 16時～18時  
キ：令和7年2月26日 9時～10時  
ク：令和7年3月30日 10時～15時  
ケ：令和6年4月～令和7年3月 各月第3日曜日 11時～13時

## 事業の概要

### 2 開催場所：

- ① 京都市だいが学園 café&shop ふらっと、醍醐いきいき市民活動センター
- ② 醍醐いきいき市民活動センター集会室、サロン、友愛ひろば
- ③ パセオ・ダイゴロー西館 2F「アトリウム」
- ④ イズミヤ六地藏店
- ⑤ 醍醐いきいき市民活動センター及び友愛ひろば
- ⑥ 醍醐いきいき市民活動センターサロン
- ⑦ 醍醐いきいき市民活動センター集会室
- ⑧ 醍醐いきいき市民活動センターサロン
- ⑨ ア：辰巳保育所    イ：折戸公園    ウ：ひと・まち交流館大会議室  
エ：醍醐支所駐車場    オ：パセオ・ダイゴロー西館 2F「アトリウム」  
カ：醍醐支所会議室    キ：春日野小学校体育館    ク：社会福祉法人同和園  
ケ：醍醐いきいき市民活動センターサロン他

### 3 参加人数：

- ① 各回 3～8 名延べ 35 名
- ② 延べ 80 名
- ③ 延べ 350 名
- ④ 延べ 250 名
- ⑤ 延べ 450 名
- ⑥ 各回 4 名～20 名延べ 64 名
- ⑦ 各回 2 名延べ 8 名
- ⑧ 30 名
- ⑨ ア：延べ 60 名    イ：延べ 150 名    ウ：延べ 150 名  
エ：①30 名    ②25 名    オ：延べ 900 名    カ：30 名    キ：100 名    ク：延べ 350 名  
ケ：延べ 360 名

### 4 協力団体等：

詳細は下記①～⑨の中に記述あり

5 予算： 2,179,750 円    /    決算： 2,170,981 円

## ①ふらっと相談 café

### 1 事業内容

- ・地域で何か始めたい方や地域に興味を持った方が、当センターのスタッフやまちづくりアドバイザーに気軽にお話や相談ができる場を提供した。
- ・ボランティアによるギター演奏のほか、今年度から新たに障害者福祉に長年取り組まれていた社会福祉士の女性にも、定年後の社会活動として福祉分野の相談をボランティアとして担っていただいた。

### 2 準備段階での工夫

- ・社会福祉法人京都身体障害者福祉センター 京都市だいが学園に場所の提供をしていただいた。
  - ・会場である「café&shop ふらっと」においては、他のお客様の迷惑にならないよう配慮しながら実施した。ボランティアの方にギターの演奏をしてもらい、なごやかな雰囲気づくりをすることで、相談に来ることへのハードルを下げた。
  - ・京都市まちづくりアドバイザーにまちづくりの相談員として同席していただき、福祉の相談については、京都市だいが学園やボランティアが対応した。
- また、第3月曜日が祝日と重なる場合は、場所を変えたり、曜日を変えたりし対応することで普段来られない方にも参加してもらいやすいように配慮した。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### (1) 当初の事業効果、目標等

雑談や日常会話の中で、気になることや関心事が明確になり、活動に興味を持ってもらえた。

#### (2) 事業実施による目標の達成度

- ・カフェの雰囲気も良く、気軽に来てもらいリラックスして話をする事が出来た。
- ・会場のだいが学園からの相談で、地域の子どものや高齢者の為の事業を行うお手伝いが出来た。本事業から生まれた、子ども向けアート事業「みんなでつくってあそぼう」では廃材を使ったお神輿を地域の子どものに作ってもらい、そのお神輿を「だいが夢もり秋まつり」で実際に担ぐなど、事業同士の繋がりが出来た。また高齢者向けには学生による寄席&スマホ活用講座を開催し、当センターの利用サークルの方が講師となり活躍の場を設ける事が出来た。
- ・参加者がまちづくりの仕事に関する相談をまちづくりアドバイザーに行い、様々なアドバイスを受ける中で、京都市の市民活動に興味を持ち、相談者が次年度の京都市まちづくりアドバイザーに就任された。

### 4 今後の抱負

- ・定期的開催することで認知度が高まり多くの方が参加してくれるが、日程の都合で参加できない方もいるため、今後もたまに日時や場所を変えて、多様な方に参加していただけるように工夫していく。
- ・地域の方とのふれあいの場、地域の方が気軽に集える場として、今後も継続していきたい。

### 5 協力団体

- ・社会福祉法人京都身体障害者福祉センター京都市だいが学園
- ・京都市まちづくりアドバイザー
- ・地域ボランティア

事業風景の写真



## ②だいが de ワイワイ井戸端会議「やんちゃ MTG」

### 1 事業内容

・今年度は子どもを主体にし、地域の子どもたちが醍醐に住んでいてどのような事を感じているのか、またどのような地域になってほしいかをお互い聞き合う場として開催した。

### 2 準備段階での工夫

・参加者が気軽に来られるように、いきセン前の広場に京都市ユースサービス協会のキッチンカーを設置し、30歳以下の方には無料でクレープの配布を行った。

・小学生には、京都橘大学の学生による遊びスペースで遊びながら話を聞き、中学生以上にはボードゲームなどを用意し、空間を分けて意見を聞き出した。

・ビンゴ形式の質問カードを作成し、インタビュー形式でお互いの意見を聞き出す事により、ゲーム感覚で様々な意見を拾うことができた。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### (1) 当初の事業効果、目標等

- ・子どもたちが主体的に地域の未来を考える場をつくることを目的とした。
- ・参加しやすい環境を整え、多くの意見を引き出すことを目指した。
- ・地域のつながりを深め、住みやすいまちづくりへとつなげることを目標とした。

#### (2) 事業実施による目標の達成度・

・地域の子どもたちが、自分の住む町について考え、意見を述べる機会を得ることができた。インタビュー形式やビンゴカードの活用により、多様な意見を集め、子どもたちの声を可視化することができた。

・子ども同士だけでなく、大学生や地域の大人たちとの交流の場も生まれ、地域コミュニティの活性化に繋がった。

・キッチンカーでの無料配布や遊びスペースの設置により、幅広い層が気軽に参加できる環境を整えることができた。

#### 【具体的な活動へ発展したもの】

醍醐には青少年活動センターが無かったため、当センターと京都市ユースサービス協会が主体となり、本格的な子どもの居場所作りの基盤を構築した。(サマーフリールーム・醍醐みらいユースセンター)

### 4 今後の抱負

・集まった子どもたちの意見をどのように活用していくかが今後の課題であり、地域や行政との連携を強化することで、さらに良い展開に繋がっていききたい。

・イベント終了後のフォローアップ（意見をまとめて共有する場の設定など）を実施することで、事業の効果を持続させることができた。

・総じて、子どもたちの主体性を引き出しながら地域活性化に貢献する良い取り組みとなったため、来年度も同様の場を継続していきたい。

### 5 協力団体

- ・京都市まちづくりアドバイザー・京都市ユースサービス協会・京都橘大学

事業風景の写真

醍醐 de ワイワイ井戸端会議「やんちゃMTG」



### ③醍醐ゆめコレクション

#### 1 事業内容

醍醐ゆめコレクション実行委員会として開催。

子ども達が自分の夢や将来の目標を発表し、みんなで応援する「ゆめプレゼンテーション」をはじめ、親子ファッションショー、キッズサークルのステージ発表、地域の市民活動団体等によるマルシェの出店や体験型ワークショップなど、多彩な企画を開催。今年3年目になる「ゆめプレゼンテーション」の企画に賛同した企業・学校・行政と連携して実施した。

#### 2 準備段階での工夫

・「ゆめプレゼンテーション」では、子どもたちに夢を語ってもらうだけでなく、コメンテーターとして伏見東はぐくみネットワーク実行委員会の主事、大学の先生、経済同友会の方に参加していただき、応援メッセージをもらいフィードバックまで行うことで、子どもたちの夢への一歩を後押しすることができた。

・「親子ファッションショー」では、株式会社ニッセンが洋服の提供から運営までを担い、イベントを盛り上げる事ができた。

・「マルシェコーナー」では、地域で活動する子ども食堂や子育て支援団体に、安価で楽しめる屋台を出してもらった。

「ワークショップ」コーナーでは、大学生による西陣織の端材を使った物づくりを、芝生広場では大学生が子どもたちを見守るなど、大学生に活躍の場を提供できた。

・「ステージ発表」では、当センターを利用するダンススクールの子どもたちがパフォーマンスを披露する機会を設けた。

・「芝生コーナー」では、小さな子どもがくつろげるように芝生を設置し、醍醐中央図書館の司書による絵本の読み聞かせを開催することで、子育て世代が楽しめる空間を演出した。

#### 3 事業実施による効果・達成度

当初の事業効果、目標等

子どもたちの夢を応援し、地域のつながりを深めることを目的に、子どもたちの自己表現の場を提供し、地域で応援し合える関係の構築を目指した。

事業実施による目標の達成度

「ゆめプレゼンテーション」や「親子ファッションショー」を通じて、多くの子どもたちが自分の夢や想いを発表することができた。観客からの応援もあり、自己表現の機会を提供できた。

地域の市民団体・企業・行政・大学が協力することで、多くの来場者が参加。世代を超えた交流が生まれ、地域コミュニティの活性化につながった。

体験型ワークショップを通じて、子どもたちや親子が伝統工芸や手仕事を学ぶ機会を提供できた。参加者の満足度も高く、今後の継続に期待が寄せられた。

株式会社ニッセンや京都市はぐくみ局・支所はぐくみ室の協力により、企業の社会貢献活動と地域の子育て支援を結びつけ、持続可能な取り組みの基盤を築くことができた。

#### 4 今後の抱負

今回の「醍醐ゆめコレクション×未来へつなぐ架け橋プロジェクト」を通じて、子どもたちが夢を語ることの大切さや、地域のつながりの強さを改めて実感した。来年度は、子どもたちの「夢」をより具体的に応援する仕組みづくりや、地域と企業とのさらなる協働を強化し、より多くの子どもたちに参加の機会を提供できるように取り組みたい。また、地域文化や伝統産業の魅力を活かしたプログラムの充実にも力を入れ、地域ぐるみで子どもたちの成長を支える環境づくりを目指していきたい。

#### 5 協力団体

・株式会社ニッセン・京都市子ども若者はぐくみ局・伏見区役所醍醐支所・伏見東はぐくみネットワーク実行委員会・京都橘大学「学まちチャレンジ!プロジェクト」醍醐いきいき市民活動センターチーム・醍醐中央図書館

醍醐ゆめコレクション



#### ④醍醐いきいきフェスティバル

##### 1 事業内容

醍醐いきセンで活動しているサークルの活動発表会を、近隣の商業施設にて開催した。いきセンの事業として活動している「はざまカフェ」に乳幼児向けのプレイコーナーを、京都橘大学の学生に子どもの遊びブースを、子ども食堂にあてものコーナーをそれぞれ運営してもらった。

##### 2 準備段階での工夫

外部の商業施設で開催するため、発表者の方々にスムーズに発表していただけるよう、事前に打ち合わせとリハーサルをしっかりと行った。また、当日プログラムに各サークルの紹介を掲載し、新たなサークルの参加者の募集を行った。

##### 3 事業実施による効果・達成度

###### (1) 当初の事業効果、目標等

様々な立場の方々との交流を通じて、参加者が刺激を受け、地域活動が活性化され、新たなサークルが生まれることを目指した。

###### (2) 事業実施による目標の達成度

- ・近隣の商業施設で発表会を開催し、10組のサークルが出演して、日頃の練習の成果を発表する場を提供できた。
- ・普段なかなか見ることができない、他のサークルの活動をゆっくり見てもらうことができた。
- ・プログラムにサークルの広報を掲載し、新規メンバー加入につながった。
- ・発表会に向けた練習のため、サークルの活動時間が増えたことで、貸館の利用増につながった。
- ・多彩なブースの出店により、多くの来場者が足を止めて楽しんでもらった。
- ・いきセンの存在を知らなかった方々にも広く周知することができた。

##### 参加者の反応

- ・参加サークルが増えてバラエティーに富んでいて楽しかった。
- ・お客さんも会場も暖かい雰囲気だった。
- ・発表する場があるので、目標を持って取り組めて良かった。

##### 4 今後の抱負

- ・「もう少し広いスペースで踊りたい」との要望があったため、次回の会場について再検討したい。
- ・発表者だけでなく、観覧者も楽しんでいただくため、今後も継続して実施していきたい。
- ・サークル同士の交流をさらに深められるような仕組みを作り、活動のさらなる活性化を図っていきたい。

##### 5 協力団体

- ・京都橘大学・はざまカフェ・食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会（みらい食堂）

事業風景の写真

醍醐いきいきフェスティバル



## ⑤だいがゆめもり秋まつり

### 1 事業内容

醍醐いきセン、みらい食堂（体験型子ども食堂）、京都橋大学が「だいがゆめもり秋まつり実行委員会」を立ち上げ、お祭りを開催した。

醍醐いきセンおよび友愛ひろばを会場とし、飲食ブースやゲームコーナーなどを設けた。

### 2 準備段階での工夫

ご飯ブースは子ども食堂が、ゲームコーナー（無料）は京都橋大学が担当し、多くの子どもたちに楽しんでもらうことができた。

当センター利用サークルの活躍の場としてステージ発表を行い、岩屋太鼓の会による太鼓の体験ワークショップも開催した。どちらも多くの来場者に喜んでいただいた。

また、地域の自治会にも屋台を出店してもらい、地域の子どもの大人が交流する機会を創出した。

さらに、エコまちステーションによるごみ箱の設置や環境ネットワークのブース出店により、エコ活動にも取り組むことができた。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### （1）当初の事業効果、目標等

コロナ禍により地域学区の夏祭りがなくなり、地域住民同士の交流する機会が減少する中、地域住民が一堂に集まる場をつくることで住民の孤立感を防ぐことを目的とした。

また、いきセンに地域の方が足を運んでもらうきっかけにもなり、認知を広げ、貸館利用にもつながることを目指した。

#### （2）事業実施による目標の達成度

・いきセンのことを知らなかった方々にも多数足を運んでもらえて、センターを周知する良い機会となった。

・地域の子どもたちに、射的コーナーを自分たちで運営する機会を提供できた。

・様々な団体からボランティアを受け入れ、新たな繋がりを築くことができた。加えて、協力団体にとっても社会活動の受け入れ先として、貴重な体験の場を提供することができた。

・ボランティア同士の交流から新たな活動に発展した。また、やりがいや楽しさを知ってもらった良い機会となった。

・「はざまカフェ」によるベビー服の交換会では、今まで来られない方が来て、その後手作りの作品を寄付していただくなど、活動の周知に繋がった。

### 参加者の反応

・初めて出店したが子どもたちがたくさん来てくれてうれしい！

・子どもが屋台のお手伝いをしてほほえましかった。

・次回は盆踊りもしたい。

### 4 今後の抱負

・今後はさらに多くの地域団体や企業、学校と連携し、出店やステージ企画の幅を広げることで、より多世代が関わり楽しめるお祭りに成長させていきたい。

・また、子どもたちが運営に関わるような仕組みや、来場者同士の交流を深めるコンテンツの導入も検討し、地域の担い手を育てる機会につなげていきたい。

さらに、環境配慮の取り組みを発展させ、エコ活動の啓発にも力を入れることで、地域の未来につながる持続可能なイベントとして根付かせていきたい。

・7年度は上鳥羽北部いきいき市民活動センターにも出店していただく予定。

### 5 協力団体

・食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会（みらい食堂）

・京都橋大学「学まちチャレンジ！プロジェクト」醍醐いきいき市民活動センターチーム

・醍醐南自治会・岩屋太鼓の会・同和園・宝生苑・深草こども食堂・京都ダルク

・京都市行政職員ボランティア

事業風景の写真

醍醐ゆめもり秋まつり



## ⑥ 醍醐みらいユースセンター

### 1 実施内容

醍醐みらいユースセンター実行委員会を立ち上げて開催。

地域におけるユース世代（主に中学生）の居場所不足に対応するため、市民活動センターのサロンを活用し、月2回の頻度で「ユース世代の居場所づくり」を実施しました。参加するユース世代が安心して過ごせるよう、e-スポーツコーナー、ボードゲーム、自習スペースなどのコンテンツを用意した。

さらに、共催の子ども食堂により100円カフェを毎回開催してもらい、軽食を提供した。

また、月2回のうち1回は、その月に誕生日を迎える参加者を祝う特別企画も実施し、温かみのある居場所づくりを提供した。

### 2 準備段階での工夫

事業の立ち上げにあたっては、地域の複数の団体と連携し、それぞれの専門性や資源を活かして準備を進めました。

京都市ユースサービス協会 ⇒ 青少年の傾向やニーズの把握、見守り体制のアドバイス、スタッフの派遣や支援をしていただいた。

子ども食堂 ⇒ 低価格での食事提供の協力、安心できる食の場の確保、調理や運営のノウハウを提供していただいた。

京都橘大学（地域連携・ボランティアサークルなど）⇒ 学生ボランティアの確保、若者同士の距離感の近さを活かした交流支援、イベントの企画サポートや運営の協力をしていただいた。

これらの連携により、専門性と実践力のある体制を整えることができ、参加者にとっても多様で安心感のある環境を提供することができた。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### （1）当初の事業効果、目標等

ユース世代の居場所を通して、地域の人や団体がつながり、協力し合う場をつくることで、市民活動の広がりや次世代支援のきっかけを生み出すこと。

#### （2）事業実施による目標の達成度

誕生日企画やカフェの時間などを通じて、子どもたちが「大切にされている」と実感でき、心の安定や社会性の育成につながっていると感じられた。

子ども食堂、青少年活動センター、大学といった多様な団体と連携し、それぞれの役割を活かして事業を進めることができた。

市民活動センターがその連携のハブとなることで、地域の中で自然なつながりが生まれ、ユース世代と地域を結ぶ機能を果たすことができた。

また、学生や地域住民がユース世代と関わる機会も生まれ、次世代支援や市民活動の新たな担い手づくりにつながる成果が見られた。

### 4 今後の抱負

回によって参加人数に差があり、安定した参加につなげる工夫や中学生が中心であり、高校生や若年層への広がりが今後の課題である。

継続的な運営のために、支援する側の人材確保に努める。

参加したことのないユース世代にも情報が届くよう、学校や地域への周知方法を見直す必要があり広報の工夫を今後していきたい。

### 5 協力団体

- ・京都橘大学・食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会（みらい食堂）
- ・京都市ユースサービス協会

事業風景の写真

醍醐みらいユースセンター



## ⑦サークル支援事業

### 1 実施内容

サークル作りを目的に、卓球および歌謡舞踊の体験会を開催した。気軽に参加できる活動を通して、今後のサークル活動への参加や自主活動のきっかけづくりを図ることを目的として実施した。

### 2 準備段階での工夫

「サークルにつなげる」という目的をスタッフ間で共有し、体験会が“単発イベント”で終わらないよう、「今後も続けたい方は…」という導線を用意した。また歌謡舞踊体験会では講師の方に来ていただき実際のサークルのイメージを持ってもらった。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### (1) 当初の事業効果、目標等

地域住民の交流機会の創出を目指し、趣味を通じた仲間づくり・孤立予防になるよう継続的な自主活動（サークル）への導入に繋げる。

#### (2) 事業実施による目標の達成度

参加者は少なかったが、その分しっかりと意見を聞く事ができた。実際に今後の活動につながるきっかけとなった。

### 4 今後の抱負

本体験会を通じて、地域内に新たなつながりが生まれ、継続的な活動への意欲も確認できた。今後は参加者の自主性を尊重しつつ、いきセンがサポート役として関わり、持続可能なサークル運営を支援していく。また、今回の課題を踏まえ、より多様な層が参加できる仕組みを構築していく。

### 5 協力団体

新舞踊都流

事業風景の写真



## ⑧お花見交流会

### 1 事業内容

醍醐いきセンのサロンのお庭で、地域住民やいきセン利用団体・サークル利用者を対象にしたお花見交流会を開催しました。イベント中は自由に出入り可能とし、参加費は無料。雨天でも開催しました。いきセン利用団体による演奏会（12時～13時）、昨年度のいきセン事業を振り返る動画上映、飲食販売（事前予約制・当日販売あり）

### 2 準備段階での工夫

当センターの活動サークルと連携し、サロンの庭を使ったステージ発表を開催。お弁当は地域の福祉施設のコミュニティカフェで発注し、地産地消につながるようにした。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### （1）当初の事業効果、目標等

いきセン利用団体間の交流促進をし、醍醐いきセンの活動を周知してもらおう。地域の居場所づくりの一環としての「サロン」の活用をする。

#### （2）事業実施による目標の達成度

事業関係者といきセン利用団体間の交流促進ができた。

動画上映により、普段事業に参加しない方にもセンターの活動内容が伝わり、新たな関心を得るきっかけとなった。

演奏会を通じた文化的交流も実現し、参加者の満足度も高かった。

地域の居場所づくりの一環としての「サロン」の活用地域住民の参加率やリピート参加者の数から見て、地域交流の促進という面では目標を十分に達成。

#### 参加者の反応

- ・桜の前で演奏しているのを聞きながら、交流するのが楽しかった。
- ・サロンの庭に出る機会がなかったので、こんな庭になっているのを知れてよかった。

### 4 今後の抱負

混雑時にサロンが手狭に感じられたため、導線の整理や座席配置の工夫が必要であるが、参加者さんからは満足度の高いお声をいただき来年度も実施する予定。

### 5 協力団体

- ・当センター利用団体・京都市まちづくりアドバイザー

お花見交流会



## ⑨連携事業

### ア 辰巳保育所夏祭り

内容：辰巳保育所の在園時、地域の親子向けに夏祭りを開催。醍醐いきセンとはざまカフェで手作りコーナーを担当。子育て層にセンターを周知した。

効果：地域の親子が安心して参加できる交流の場となり、保育所と地域のつながりを強化することができた。いきセンの手作りコーナーは親子のふれあいを促進し、参加者の満足度も高かった。

協力団体：辰巳保育所、はざまカフェ



### イ 醍醐ふれあいプラザ（主催：醍醐ふれあいプラザ実行委員会）

内容：区民ふれあい祭り。醍醐いきセンブースを出店し広く広報した。

効果：幅広い年齢層の区民が参加し、地域の一体感を高める機会となった。いきセンの参加を通じて、地域活動の認知向上にも寄与した。



### ウ みんなの文化祭

内容：市民活動センター共催で、各センター利用のサークル発表会に参加。

効果：センター利用団体の活動発表の場を提供することで、市民活動の活性化と参加意欲の向上につながった。

協力団体：各市民活動センター



## ⑨連携事業

### エ つながるプラットフォームミーティング

内容：地域において多様な主体が出会いまなび合う場「地域づくりプラットフォーム」の構築する準備開催にコアメンバーとして参加。

効果：多様な地域主体がつながる場づくりの第一歩として、参加者同士の相互理解や学び合いが促進された。今後の地域づくりの基盤形成に向けた重要な準備活動となった。

協力団体：伏見区役所醍醐支所、伏見区社会福祉協議会醍醐分室、京都市まちづくりアドバイザー



### オ meetusLobo

内容：パセオ・ダイゴローを使った社会実験。醍醐いきセンブースとして子育て層の声を聞いたり広報を行った。

効果：子育て層のニーズを直接聞き取る貴重な機会となり、いきセンの情報発信・広報活動にも有効であった。商業施設を活用した実験的な取組が、新たな地域連携の可能性を示した。

協力団体：京都市、株式会社マガザン



### カ まちづくりカフェ

内容：まちづくり団体と行政との交流の場として、いきセンは場の進行として参加。

効果：行政とまちづくり団体がフラットに交流できる場を提供し、協働のきっかけづくりにつながった。いきセンが進行を担うことで、ファシリテーション能力の向上と信頼構築が図られた。

協力団体：伏見区役所醍醐支所



### ⑨連携事業

キ 春日野小学校フレンズゲームラリー

内容：春日野小学校の行事に参加。

効果：子どもたちの交流と主体性を育む機会となり、学校と地域をつなぐ取組として保護者・教職員からも好評を得た。いきセンの地域連携の一環として、教育分野との協力体制を強化した。

協力団体：春日野小学校



ク さくら祭り

内容：社会福祉法人同和園にて、同和園さくら祭り実行委員会として「さくら祭り」を開催し、いきセンもブース（ドリンクコーナー）として出店。

効果：高齢者施設における地域開放イベントとして、住民との交流を深める場となった。いきセンのブースは世代間交流の促進に寄与し、福祉と地域活動の橋渡し役としての意義を発揮した。

協力団体：社会福祉法人同和園、京都醍醐北郵便局、京都福祉サービス協会醍醐事務所、京都橘大学、京都市だいが学園、京都市やましな学園、三笑堂、すばる醍醐、たのしい家醍醐、醍醐の家ほっこり、TACOSBOX、つばさクラブ少年団、社会福祉法人やましなの里、POLA LEI SALPN、ヒノリーノ、宝生苑、メナード、食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会（みらい食堂）



ケ みらい食堂

内容：食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会が主催で、醍醐いきセンのサロンにて、毎月第3日曜日に開催。3年前の団体立ち上げに関わったことでサロンを定期的に利用し、いきセンの和室をボランティアスタッフの控室として利用するなど、貸館利用にもつながった。単なる子ども食堂ではなく、子どもたちや親子で様々な体験ができる子ども食堂として認知され、醍醐支所の事業とのコラボも実現。7年度は企業とのコラボ事業も実施予定。

協力団体：食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会



## 2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】文化サロンづくり「みんなのアトリエ」（サロン運営・活用事業）

- ① まちかど美術館
- ② カルチャースペース（A 尊鉢さんのギターで歌おう！ Bブック&レコードサロン C書き方教室 D一穂の部屋）
- ③ 図書館との連携 絵本サロン
- ④ はざまカフェ

### 事業の概要

#### 1 開催日時：

- ① 令和6年4月～令和7年3月
- ② A 令和6年6月～令和7年2月（各回13時～15時 計9回）  
令和6年6月13日（木）、7月11日（木）、8月8日（木）、9月12日（木）、  
10月10日（木）、11月14日（木）、12月12日（木）、令和7年1月9日（木）、  
2月13日（木）  
B 令和6年6月～令和7年2月（各回14時～16時 計9回）  
令和6年6月15日（土）、7月20日（土）、8月17日（土）、9月21日（土）、  
10月19日（土）、11月16日（土）、12月21日（土）、令和7年1月18日（土）、  
2月15日（土）  
C 令和6年6月～令和7年2月（各回13時～15時 計16回）  
※令和6年7月3日（水）は中止。（スタッフ体調不良のため）  
令和6年6月19日（水）、7月17日（水）、8月7日（水）、8月21日（水）、  
9月4日（水）、9月18日（水）、10月2日（水）、10月16日（水）、11月6日  
（水）、11月20日（水）、12月4日（水）、12月18日（水）、令和7年1月8日  
（水）、1月22日（水）、2月5日（水）、2月19日（水）  
D 令和6年6月～令和7年2月（毎回13時～15時 計13回）  
※令和6年6月28日（金）と7月5日（金）は中止。（本人体調不良のため）  
※令和6年8月中と9月中は猛暑のため中止する。  
令和6年6月21日（金）、7月12日（金）、7月19日（金）、7月26日（金）、  
10月23日（水）、11月13日（水）、11月27日（水）、12月11日（水）、12月  
25日（水）、令和7年1月15日（水）、1月29日（水）、2月12日（水）、2月26  
日（水）
- ③ 第1回 令和6年9月27日（金）14時～15時  
第2回 令和6年11月29日（金）14時～15時
- ④ 令和6年4月～令和7年3月 計15回
  - a 令和6年4月19日（金）12時～13時
  - b 令和6年6月24日（月）10時30分～13時30分
  - c 令和6年7月19日（金）16時～17時
  - d 令和6年8月19日（月）13時～15時
  - e 令和6年9月6日（金）13時～16時
  - f 令和6年9月22日（日）11時～15時

- g 令和 6 年 10 月 5 日（土） 11 時～15 時
- h 令和 6 年 11 月 28 日（木） 13 時～16 時
- i 令和 6 年 12 月 7 日（土） 10 時～15 時
- j 令和 6 年 12 月 8 日（日） 13 時～16 時
- k 令和 6 年 12 月 15 日（日） 11 時～14 時 30 分
- l 令和 7 年 1 月 25 日（土） 11 時～13 時
- m 令和 7 年 2 月 22 日（土） 10 時～14 時
- n 令和 7 年 3 月 2 日（日） 10 時 30 分～12 時
- o 令和 7 年 3 月 26 日（水） 11 時～13 時

2 開催場所：①～④ サロン「おいない」

※④→サロン「おいない」以外の開催については、以下のとおり。

辰巳保育所（c）、醍醐支所（e h）、イズミヤ六地藏店（j）、京都橘大学（k）  
パセオ・ダイゴロー（i m）、醍醐中央図書館（n）

3 参加人数：①延べ 1495 名 ②A 計 27 名 B 計 57 名 C 計 85 名 D 計 31 名

③第 1 回（9/27）12 名 第 2 回（11/29）6 名 ④計 236 名（イベント出店を除く）

4 協力団体：①春日丘センター ③醍醐中央図書館、④辰巳保育所（c）、だいが学園（d）、  
醍醐支所（e h）、京都橘大学（k）、醍醐中央図書館（n）

5 予算： 2,072,200 円 / 決算：2,073,406 円

① まちかど美術館

1 事業内容

地域の高齢者施設「春日丘センター」の利用者が作成した手作り作品を展示した。

2 準備段階での工夫

春日丘センターは近隣の施設であり、日常からセンターのスタッフとコミュニケーションをとっているため、スムーズに展示することができた。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

近くにある高齢者施設の利用者の手作り作品を展示することで、地域間交流を図ることを目標にした。

(2) 事業実施による目的の達成度

春日丘センターのスタッフの減少や利用者の高齢化により、前年度と比べると展示の頻度が少なくなった。

4 今後の抱負

今後、展示の頻度が少なくなることが予想されるが、展示を継続することにより、地域の高齢者の生きがいづくりを行い、地域間交流を図っていきたい。

事業風景の写真

① 「まちかど美術館」



## ② A 尊鉢さんのギターで歌おう！

### 1 事業内容

尊鉢さんのギター演奏で参加者が懐かしい歌を歌ったり、ゆっくりおしゃべりする場をつくった。

### 2 準備段階での工夫

歌集（2冊）を用意して、参加者に使用してもらった。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### （1）当初の事業効果、目標等

参加者がみんなで歌を歌いおしゃべりすることによって、参加者が交流して楽しむ場をつくることを目標にした。

#### （2）事業実施による目標の達成度

地域に引っ越してこられた方がチラシを見て参加され、知り合いや仲間をつくる場になった。参加人数は少なかったが、当初の目標は達成できた。

#### ○参加者の反応

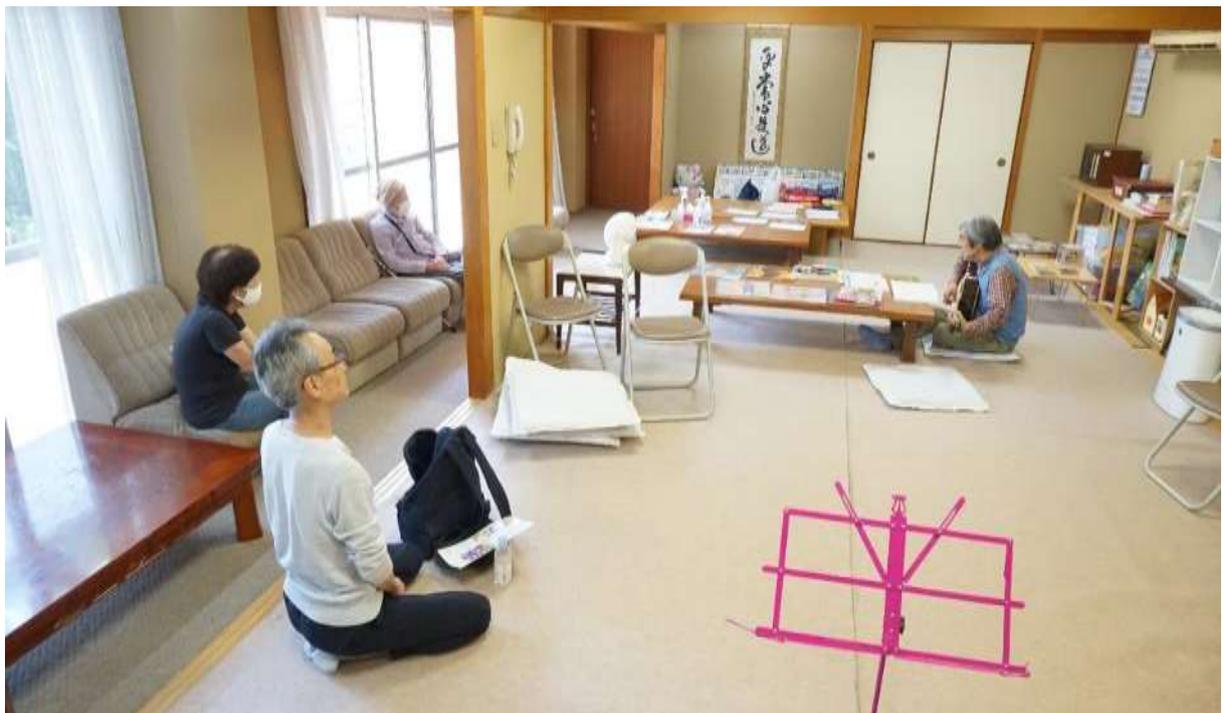
一人住まいのご高齢の方が、懐かしい歌を歌ったり、聴けるといことで毎月楽しみにしているという感想をいただいた。

### 4 今後の抱負

高齢者ばかりでなく、若い方も参加できるように工夫したい。

事業風景の写真

② A「尊鉢さんのギターで歌おう！」



## ②B ブック&レコードサロン

### 1 事業内容

参加者によるおすすめの本と音楽（レコード、CD 他）の紹介の場。参加者同士でおしゃべりして交流する。

### 2 準備段階での工夫

サロン事業全体のチラシを小冊子として春先に一括で作成し広報を行った。「ブック&レコードサロン」は毎月1回の開催で年間9回開催したが、個々のチラシは作成せずに SNS で直前広報して集客を行った。

### 3 事業実施による効果、目標等

#### (1) 当初の事業効果、目標等

本や音楽（レコード）が生み出すつながりによって幅広い世代が集いそして参加者が交流する場をつくることを目標にした。

#### (2) 事業実施による目標の達成度

本を媒介に新しい出会いの場として参加者が繋がっていった。

- ・参加者の世界が広がり、参加者が多角的な視点を持つことができた。
- ・世代間交流が図られた。

以上の3点から、事業として成功したと考えている。

#### ○参加者の反応

「対話すること、会話することの大切さを実感した。」

（第4回「ブック&レコードサロン」参加者の声）

「化学反応が起きるようなゲストの方（本の紹介者）の話が良かった。」

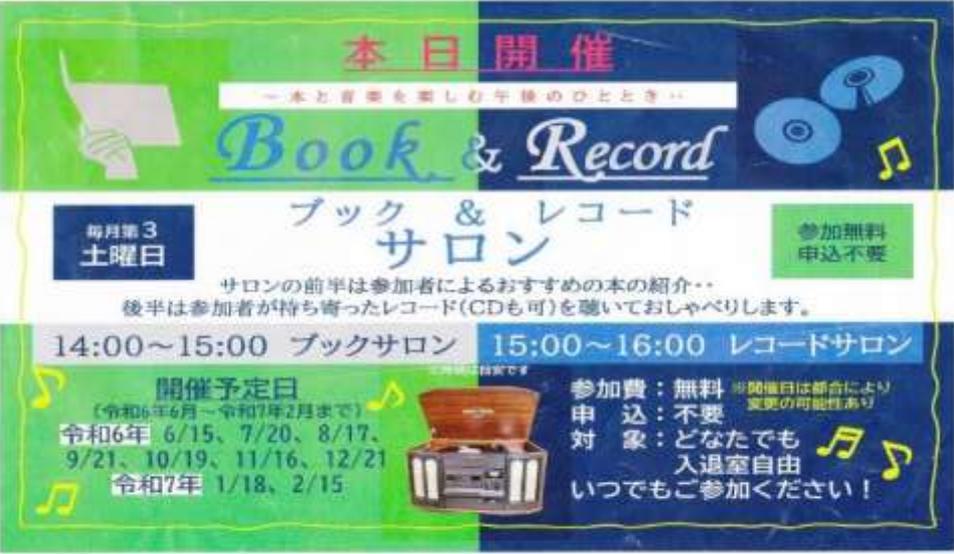
（第6回「ブック&レコードサロン」参加者の声）

### 4 今後の抱負

「対話すること」「会話すること」の重要性をサロン事業を展開して痛切に感じている。さらに多世代が交流できる場を創出したい。

事業風景の写真

② B「ブック&レコードサロン」



**本日開催**  
一本と音楽を楽しむ午後のひととき

# Book & Record

ブック & レコード  
サロン

参加無料  
申込不要

毎月第3  
土曜日

サロンの前半は参加者によるおすすめの本の紹介…  
後半は参加者が持ち寄ったレコード(CDも可)を聴いておしゃべりします。

14:00~15:00 ブックサロン    15:00~16:00 レコードサロン

**開催予定日**  
〔令和6年6月~令和7年2月まで〕  
令和6年 6/15、7/20、8/17、  
9/21、10/19、11/16、12/21  
令和7年 1/18、2/15

参加費：無料 ※開催日は都合により変更の可能性あり  
申込：不要  
対象：どなたでも  
入退室自由  
いつでもご参加ください！



## ②C 書き方教室

### 1 事業内容

いきセンのスタッフと一緒に気軽に「書」の時間を楽しみ、ゆったりする場をつくった。

### 2 準備段階での工夫

筆や墨、半紙など必要なものは、すべていきセンで用意した。参加者の方が気軽に参加できるようにした。月2回開催で月毎にお手本を変えて、参加者に配布した。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### (1) 当初の事業効果、目標等

いきセンのスタッフと一緒に気軽に「書」の時間を楽しむ場をつくることを目標にした。

#### (2) 事業実施による目標の達成度

気軽に「書」ができる場をつくったことが、リピーターを生み、サロンが活性化した。

#### ○参加者の反応

「習字をするのは小学校以来で楽しかった。」

「おしゃべりしながら習字ができるのが楽しい。」

### 4 今後の抱負

好評につき次年度も実施を予定している。次年度は参加費は無料ではなく有料としたい。

事業風景の写真

③ C「書き方教室」

**本日開催**  
**書き方教室**

毎月第1, 3  
**水曜日**

いきセンのスタッフと一緒に  
お気軽にお習字やペン習字をしませんか？  
ゆったりとした時間を楽しみましょう！  
※講師はおりません

時間：13:00～15:00 入退室自由  
参加費：無料 対象：どなたでも

開催予定日  
(令和6年6月～令和7年2月まで、開催日は都合により変更の可能性あり)  
令和6年6/19、7/3、7/17、8/7、8/21、9/4、9/18、10/2、  
10/16、11/6、11/20、12/4、12/18 令和7年1/8、1/22、2/5、2/19

筆ペンや半紙など  
必要なものはこちらで  
ご用意しております



## ②D 一穂の部屋

### 1 事業内容

地域で居場所づくりをしたい田中一穂さんと一緒におしゃべりする場をつくった。10月からは、みんなで絵手紙をつくった。

※田中一穂さん…傾聴ボランティアの経験を活かして、20数年間、地域の高齢者施設を訪問。地域で公園体操のリーダーを務めている。

### 2 準備段階での工夫

6月から毎週開催でスタートしたが、7月まで参加者はゼロだった。その後、一穂さんと内容の検討を重ね、10月から月2回の開催とし「一穂さんと一緒に絵手紙をつくる」という内容にした。

### 3 事業実施による効果・達成度

#### (1) 当初の事業効果、目標等

田中一穂さんと自由におしゃべりしたり、歌を歌ったり、楽器を演奏したり、身体を動かしたりというような「地域の居場所づくり」を目標にした。

#### (2) 事業実施による目標の達成度

当初、事業内容があいまいだったため、参加する側からは「何をする場なのか」がわかりにくく、参加者がゼロの状態が続いた。年間を通してみると、目標は達成できなかった。

### 4 今後の抱負

「一穂の部屋」と「書き方教室」の参加者が重なっているので、次年度は「書き方教室」に一本化したいと考えている。

事業風景の写真  
 ②D「一穂の部屋」

一穂の部屋

毎日2、4  
水曜日

参加無料  
申込み要

絵手紙は、書道に類を添えることにより、豊かな自分の心を表現することができます。  
 『一穂の部屋』では10月から絵手紙をつくります。  
 みんなで絵手紙の世界を楽しみましょう！

【開催会場】  
 伊都市民活動センター  
 〒577-1345  
 京都府伊都郡山田町1-21  
 ☎ 075-571-0035  
 FAX 075-573-5224

【開催日時】  
 10月15日、11月5日、11月25日、12月5日、12月25日  
 ※10月15日はお申し込み不要です。

【お問い合わせ】  
 伊都市民活動センター  
 〒577-1345  
 京都府伊都郡山田町1-21  
 ☎ 075-571-0035  
 FAX 075-573-5224



### ③図書館との連携

絵本サロン

#### 1 事業内容

「絵本専門士」の図書館司書による大人のための絵本紹介と読み聞かせ

#### ○協力団体

京都市醍醐中央図書館

#### 2 準備段階での工夫

参加者のターゲットを大人（一般）に絞った。

年間で2回開催することにより、絵本に興味のある一般の方が、少しでも多く参加できるようにした。

#### 3 事業実施による効果・達成度

##### (1) 当初の事業効果、目標等

地域の図書館といきセンが連携、協力して、地域にお住まいの方とりわけ高齢者の孤立を防ぐ取組みを行う。

##### (2) 事業実施による目標の達成度

参加者（地域にお住まいの方や絵本に興味のある方）に満足度の高いイベントを提供することができた。

#### ○参加者の反応

「このような機会はないので、また参加したい。」（第1回の参加者の声）

「とても素敵な可愛いまた興味ある絵本ばかりで、大変楽しい時間を過ごすことができた。」

（第2回の参加者の声）

#### 4 今後の抱負

引き続き図書館と連携して高齢者を対象とした企画を考えていきたい。

事業風景の写真

③図書館との連携 「絵本サロン」



京都市 読みたいいき市民活動センター・読書研究会 協力事業  
参加：無料  
申込：不要  
対象：大人

絵本を楽しむ午後のひととき

「絵本専門士」の知恵と経験による  
絵本の紹介と読み聞かせ  
絵本は子どもだけのものではありません。  
今が心に響く本も  
絵本の魅力に魅かれてみてください。

■絵本専門士とは？  
国立中央児童書館館長から認定される絵本に関する  
高度な知識、技術及び経験を備えた絵本の専門家。

第1回  
令和6年9月27日(金)  
14:00~15:00

第2回  
令和6年11月29日(金)  
14:00~15:00

場 所：読みたいいき市民活動センター サロン「おさない」  
参加費：無料  
対 象：一般(大人)  
申 込：不要(当日参加可)

【お問合せ】  
京都市読書  
いいき市民活動センター  
〒601-1245  
京都市伏見区醍醐山部通町21-21  
☎ 075-571-0035  
FAX 075-573-5224  
開館時間 月～土 12時～21時  
日 12時～17時  
休館日 休館日 月曜日、木曜日(祝祭日)  
12月31日(年末年始) 1月1日(元日)  
※休館日を除く日曜日・祝祭日・年末年始は  
臨時休館となります。  
※お申し込みは、読みたいいき市民活動センター  
までお電話ください。TEL:075-571-0035  
〒601-1245 京都市伏見区醍醐山部通町21-21  
読みたいいき市民活動センター 伏見区役所内

●絵本専門士による絵本一冊紹介(1冊を重点的に紹介し、読者の声  
●絵本についてのお話(絵本の種類や読みかた、絵本の選びかた、読みかた、読みかた)  
→1冊の絵本を1冊紹介(1冊の絵本を1冊紹介)→1冊の絵本を1冊紹介  
●絵本が好きな絵本(1冊の絵本を1冊紹介)→1冊の絵本を1冊紹介  
●絵本が好きな絵本(1冊の絵本を1冊紹介)→1冊の絵本を1冊紹介



#### ④はざまカフェ

##### 1 事業内容

ベビー&キッズ用品交換会を中心として、子育て中の方がほっと一息つける企画やお子さん向けの企画を醍醐の各地で実施した。

##### 2 準備段階での工夫

はざまカフェの活動を地域の方に認知してもらうために、行政、大学および各施設の協力を得て、ベビー&キッズ用品交換会を数多く実施した。

また学童期のニーズに応えるために、さくらや京都店の協力で新たにランドセル・学用品譲渡会を実施した。

##### 3 事業実施による効果・達成度

###### (1) 当初の事業効果、目標等

子育て中の方がほっと一息つける企画やお子さん向けの企画を行い、地域で子育てについて気軽におしゃべりをして交流する場をつくる。

###### (2) 事業実施による目標の達成度

「はざまカフェ」として、この1年間いろいろな取組みができて、繋がりが広がった。

ただイベントを実施することに追われてしまい、子育てについてじっくり話ができる場をなかなかつくれなかった。

###### ○参加者の声

ベビー&キッズ用品交換会を醍醐支所と醍醐中央図書館でそれぞれ行ったが、両方の施設から今後行ってほしいという声があがっている。

- ・ベビー&キッズ用品交換会は参加者から喜ばれている。
- ・ランドセル・学用品譲渡会が好評だった。(f)
- ・おしるこづくりで、お餅が大好評だった。(j)

##### 4 今後の抱負

- ・今年度開催したイベントの参加者から1名が新しく「はざまカフェ」のメンバーに加わった。活動が広がっていくなかで、メンバーとスタッフの人数が不足している。今後、メンバーの増強とボランティアスタッフの確保に力を入れていく。
- ・お母さん同士がじっくり子育てについて話ができる場づくりを考えていく。
- ・いきセンとして来年度も引き続き「はざまカフェ」の活動をサポートしていく。

事業風景の写真

④はざまカフェ



### 3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

#### 1 利用料金の収入実績

令和6年度実績：1,495,480円（前年度比98%）

〔内訳 会議室等：1,438,600円  
付属設備：56,880円 ※自主事業分を除く〕

#### 2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

### 4. 施設の利用者満足度の把握

#### 1 利用者満足度の把握状況

##### (1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和6年11月実施

【調査項目】窓口サービス

##### (2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

#### 2 利用者満足度把握の結果

##### (1) 全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
63.3%	33.2%	3.1%	0.0%	0.3%

##### (2) センター独自アンケート

○概ね満足

温かい雰囲気でした。楽しかったです。（醍醐いきいきフェスティバル）

子どもを地域で囲む大切さをもっといろんな形でアピールしてほしい。子どもの人数の低下が気になります。（醍醐ゆめコレクション）

#### 3 意見等への主な対応状況

○「着替え中に扉を開けられるのは恥ずかしいので控えてもらいたい。高校生とかもいるため少し困る。」の声を受け、スタッフには利用者の在室中は必ず声をかけてから入室するよう徹底した。利用者には利用時間内に着替えを終えて退室していただくよう伝えた。

## 5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

・貸館については、新たなジャンルの利用者が増えたほか、一旦他の場所で活動されていた団体が戻って来られるなど明るい兆しも見えてきた。6年度から実施した電話とオンラインによる仮予約も、少しずつ利用が増えてきた。数字は以前厳しいものとなっているが、今後も増やせるよう SNS で発信するなど広報に努めていきたい。

・市民活動支援・活性化事業については、他団体と連携して行うことが多い一年であった。連携先も多岐にわたり、それぞれの活動に刺激を与えるものとなった。連携することでプラスの相乗効果も生まれ、地域にも還元されることとなった。7年度はさらに発展した事業として、地域で活動したい企業と連携して事業展開を図りたい。

・サロン運営・活用事業については、年齢を問わず居場所となる「きっかけを作る」ことを心掛けた。「きっかけ」が習字や音楽、本、ベビー服の交換会など、ここに来たら何かがある、そんな場を意識しながら事業を実施した。参加者からは高評価が得られた。

・その他の事業として、各いきセンとしみセンとで「みんなの文化祭」を開催した。スケジュール的になかなか厳しいところもあり、しっかりと運営に関わるができなかったが、参加されたサークル団体からは良かったとの声をいただいた。

・6年度はこれまで以上に他団体から声がかかる形での連携事業や、実行委員会形式で実施する事業が多かった。連携先と打合せを重ねて事業を実施することでお互いの信頼関係がより深まった。地域を良くしたい、地域に何か変化をもたらしたいという思いは同じで、7年度も引き続き関係性を深めて、地域に根差した活動を行っていきたい。

## 6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

○ 特になし